

編 集 後 記

新年明けましておめでとうございます。臨床神経学の読者の皆様には、新たな目標を胸に新春を迎えられたことと存じます。さらに喜ばしいのは、本号が臨床神経学の記念すべきオープンアクセス可能な完全電子ジャーナルとしての第1号となったことです。

日本神経学会の機関誌「臨床神経学」の完全電子ジャーナル化は積年の願いでありました。それは、第一に現実面でこれまで本誌の発行にかかわる印刷・郵送などの経費が、学会運営予算において大きな比率を占め学会財政を圧迫してきたことですが、そればかりではありません。読者の側からも、電子化により検索機能が優れたものとなり「臨床神経学」の活用法も数段進歩したものになるというメリットが生まれます。またオープンアクセスになりましたので、これまで以上にアクセス数が増え、臨床神経学の論文を読む方が増え、また本誌掲載論文が被引用論文として有利な状況になることが期待されます。印刷冊子体がなくなってしまうことに一抹の哀愁を禁じませんが、時代の大きな流れとニーズに即応した結果ということができるとでしょう。

平成26年度の新規投稿数は10月の時点で85編、昨年度に受け付けた繰り越し分を含めると採択論文は71編、不採択論文は31編、査読中の論文は27編に上ります。今期の編集委員会での論文採択率は平成26年11月の時点で

60%となります。また採択判定までの平均所要日数は102日となっています。そして、すでに55巻5号まで掲載論文が決定しています。月単位の論文投稿数は順調に推移しており、編集委員長として学会員の皆様の臨床例への積極的な探究心に驚かされております。

臨床神経学電子ジャーナル全文PDFアクセスの状況は、2013年11月～2014年10月の期間のアクセス件数は、なんと百万件を超え1,113,636件に達しました。前年度の同期間アクセス数863,623件を大きく上回っています。先に述べましたように、55巻から完全電子化とともに、オープンアクセスジャーナルとなりました。掲載論文は全てIDパスワードの認証無しで閲覧可能ですが、巻末に掲載される各地方会の後抄録は引き続き無期限での会員限定公開となります。これは、地方会后抄録は査読の過程を踏んでおらず、個人情報の確認が不十分であるためです。よろしくご理解ください。

論文の種類では、例年通り「症例報告」および「短報」はコンスタントに投稿されておりますが、被引用度の高い「総説」の投稿が少ないようです。是非、先生方のご専門の領域の「総説」を積極的にご投稿いただきたいと思います。本年も多くのご投稿をお待ちしております。

(鈴木 則宏)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 瀧山 嘉久 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹 森 秀生

「臨床神経学」	第55巻 第1号	平成27年1月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高 橋 良 輔
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>